

## 本書の構成と内容

本書については、前回の平成 10 年版原子力白書（1998 年 6 月 19 日）発刊以降、2003 年 9 月末までの原子力全般に関する動向について、最近の状況に重点を置きつつとりまとめた。

本書は、「本編」と「資料編」から構成される。

まず、本編として第 1 章においては、「原子力発電」、「信頼回復」、「核燃料サイクル」、「研究開発」、「国際動向」及び「政策評価」のテーマに分けて、原子力の現状をまとめつつ、新たな時代の原子力政策に対する原子力委員会の考え方を示している。

第 2 章においては、2000 年 11 月に策定した「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」を踏まえ、「我が国の原子力行政」、「国民・社会と原子力の調和」、「原子力発電と核燃料サイクル」、「原子力科学技術の多様な展開」、「国民生活に貢献する放射線利用」、「国際社会と原子力の調和」、「原子力の研究、開発及び利用の推進基盤」について、それぞれ最近の動向を中心に具体的に説明している。

また、資料編では、原子力委員会の決定等、原子力関係予算、年表等をまとめた。

なお、原子力開発利用については、安全の確保が大前提であり、原子力安全委員会、安全規制当局、研究開発機関、電気事業者、メーカーなどがそれぞれの立場で安全の確保に努めている。それについては、別に「原子力安全白書」において取り扱われているので、本書においてはその詳細に立ち入ることは避け、原子力政策に関する基本的事項にとどめることにした。